

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
ECC国際外語専門学校	昭和59年2月20日	瀧山淳一	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (電話) 06-6311-1446																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人山口学園	昭和58年11月22日	理事長 酒元英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (電話) 06-6366-1440																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	語学ビジネス専門課程	こども教育研究学科	-	平成27年文部科学省 告示第18号																							
学科の目的	<p>本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。そのために以下の4項目をこども教育研究学科の学科目標として掲げている。</p> <p>①こども教育業界・保育園・幼稚園・小学校での勤務のある講師・専門家による理論と実学教育を通じて、最先端の情報と技術を提供することにより、保育・幼稚園教育・小学校教育の現場が求める即戦力を伴った人材養成教育を行う。</p> <p>②授業で得た知識・技能を現場実習で実践することにより、経験力と教育力を高める。</p> <p>③英語能力を磨き、英語を使って保育・教育ができる人材となるための実用英語教育を行う。</p>																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	3240	2640	960	0	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
100	72	0	3	35	38																						
学期制度	<p>■前期:4月1日～7月31日</p> <p>■後期:9月1日～3月31日</p>		成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が50点以上であること。</p>																							
長期休み	<p>■学年始:4月1日</p> <p>■夏季:8月1日～8月31日</p> <p>■冬季:12月17日～1月13日</p> <p>■学年末:2月11日～4月上旬</p>		卒業・進級条件	<p>【卒業の要件】卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。</p> <p>【進級の要件】進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。</p>																							
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による出欠確認 ・担任面談 ・保護者会 ・電話による対応</p>		課外活動	<p>■課外活動の種類 ・スポーツ大会 ・英語スピーチコンテスト ・夏期英語集中プログラム ・ハロウィーン ・文化祭(地球祭) ・海外語学留学(英国・韓国等) ・プレゼンテーションコンテスト ・春期就職活動プログラム</p>																							
就職等の状況※2	<p>■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 保育士(インターナショナルスクール含む)、小学校教員(京都市、大阪府豊能郡)、講師登録、児童養護施設他</p> <p>■就職指導内容 こども保育就職対策(幼稚園/保育園/インターナショナルスクール受験用)、小学校教員採用試験対策(ES/一般教養/面接他)、公務員試験対策、ビジネスマナー</p> <p>■卒業生数: 15 人</p> <p>■就職希望者数: 13 人</p> <p>■就職者数: 13 人</p> <p>■就職率: 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合: 86.7 %</p> <p>■その他: 0</p> <p>(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)</p>		主な学修成果(資格・検定等)※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校教諭1種免許</td> <td>①</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭1種免許</td> <td>①</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>保育士国家資格</td> <td>①</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	小学校教諭1種免許	①	9	9	幼稚園教諭1種免許	①	15	15	保育士国家資格	①	15	15	社会福祉主事任用資格	③	15	15
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
小学校教諭1種免許	①	9	9																								
幼稚園教諭1種免許	①	15	15																								
保育士国家資格	①	15	15																								
社会福祉主事任用資格	③	15	15																								
中途退学の現状	<p>■中途退学者: 5名</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者82名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者77名(平成31年3月31日卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良、単位不足</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談、出席管理、保護者(来校、TEL)会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携</p>		■中退率: 6.1%																								
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>①英語試験特待による減免 ②ライセンス優遇特待による減免 ③指定大学・短大卒業による減免 ④大学・短大・専門学校卒業による減免 ⑤山口学園ご家族紹介優遇 ⑥ECC学習経験者優遇 ⑦関西外大・山口勇記念奨学生制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																										
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p>																										
当該学科のホームページURL	http://kokusai.ecc.ac.jp/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会を設置しこども教育業界に関する企業、団体等との連携体制を強化し、授業科目やカリキュラムの更なる充実をはかる。こども教育業界に精通した団体および企業等より委員を選任し、年2回の委員会では以下の事項について協議をし、改善を積極的に実践する。

1. 授業内容・学習成果・進路成果を分析し、改善策を協議する。年二回実施する、学生アンケート結果や授業内容・進路内容・学校生活等の情報をもとに、教育内容の改善を行う。
2. 企業・業界からの新たなニーズや要望を受け入れ、カリキュラムや実習・授業以外のプログラムに組み込めるかを協議し、年間カリキュラム、プログラムに反映させる。そのために、積極的に就職先企業よりモニタリングを行い、職業人として必要な要素や課題の情報収集につとめる。
3. 教職員のスキル(専門知識/技術)と指導力の向上を図るために研修体制を継続的に行うための情報共有の場とする。教職員アンケート(年2回)を実施しその情報を基に、企業研修(インターンシップ)の事前教育、研修期間中、事後教育における企業との連携・調整の改善をおこなう。
4. 教育課程編成委員会で協議された内容を、学内カリキュラム編成委員会で検討し、次年度以降の実際のカリキュラムや学校事業に組み込み、採用できない場合はその背景をまとめ次年度以降の教育課程編成委員会で報告し了解を得る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の①～⑤の流れに沿って編成委員会において、教育課程の改善を図る

- ① 教務課:教育に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ② 進路指導課:進路指導に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ③ 第1回教育課程編成委員会:教務・進路指導の課題を受け、企業・業界の立場から改善策の協議と提案する。
- ④ 学内カリキュラム編成委員会:教育課程編成委員会での協議内容に基づき審議し実施可能か決定する。
- ⑤ 第2回教育課程編成委員会:新年度の人材育成目標、カリキュラム改善点等を報告し承認を得る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
小椋 圭一郎	社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団	2019年4月1日～2021年3月31日(2年)	①
守屋 美智子	社会福祉法人 都島友の会 都島児童センター	2019年4月1日～2021年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月7日 16:30～18:30

第2回 平成31年2月23日 16:45～18:45

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会委員の方に求められる人材像や、近年の若手社員に見られる傾向をお聞きした。英語力に関しては現場でも必要性が高まっており、本校でもさらに英語への取り組み姿勢を強化していく必要を感じた。面談等でゴールを明確につたえるよう取り組んでいる。また、人間力に関しては、個人が持っている課題に対して、自信が自覚し、できる事とできない事を明確化していくことが求められている。命を預かる仕事として、粘り強く面談を重ねるようアドバイスを受けた。学生面談の際に一つ一つに意味があり、課題設定を高めていくようにしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1.企業等との連携による実習・演習等の目的

- ・業界の実態を理解するために仕組み、内容、最新情報・技術を学生に授業を通じて提供する。
- ・業界での現場体験することにより、接客実戦(経験)力を高める。企業等と連携して実習・演習を行う。

2.企業等との連携による実習・演習等の運営

- ・企業等との連携による実習・演習等は本校教員と企業等から派遣された担当者が共同して実施する場合と、企業等から提供されたカリキュラム及び教材をもとに本校教員が授業を実施する場合がある。
- ・実施された実習・演習等については教務責任者、コース担任及び教育課程編成委員会で内容を検証し改善を図る。

3.企業等との連携による実習・演習等の評価

- ・本校教員と企業担当者が共同して実施する場合は、授業の成果に対して企業担当者の評価を基に本校教員が成績評価を行う。
- ・カリキュラム等を提供されて実施する場合は、企業等の成績評価規程に従って本校教員が成績評価を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

提携する保育園、児童養護施設において、授業担当者は実習実施前にコース責任者、担任とともに実習園、施設担当者、園長・責任者等から実習の方針、方法、内容などについて研修をうける。また事前、事後のカリキュラム内容、授業内容、進行に関して助言をうける。同時に各園、施設の最新事業についての知識を学ぶ。その上で実習終了までの学生成長を促進できるよう、期間中の実習訪問や実施後の実習簿記入指導等を通じて、成果を追求していく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習ⅡA(保育)	提携する保育園において、10日間の実習を行う。保育園、保育事情の最新知識を学ぶとともに、乳幼児、こども達を保育、指導できる力を養う。	社会福祉法人都島友の会
保育実習ⅡA(施設)	提携する児童養護施設で10日間の実習を行う。児童養護施設の事情、社会的背景等を学ぶとともに、生活をともにしながら、こども達を指導できる力を養う。	児童養護施設博愛社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。

1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的

教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。

2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営

研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせ実施する。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「養成校と各施設との懇談会」(連携企業等: 一般社団法人 大阪府立幼稚園連盟)

期間: 平成30年7月5日(木) 対象: 大阪府下の幼稚園、幼稚園教員養成校

内容: 幼稚園の担当者と、教員養成校の担当者が幼稚園実習での課題について学び、受け入れ側、送り出す側、双方で取り組める改善点について意見交換を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Hyper-QU 活用研修」(連携企業等: 図書文化社)

期間: 平成30年12月17日(月) 対象: 教職員

内容: Hyper-QUを活用したクラス運営方法や個別支援を学ぶ

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「施設の種類やそれぞれの特徴などについて」(連携企業等: 大阪市北区社会福祉協議会)

期間: 令和元年10月3日(木) 対象: 教職員

内容: 施設実習に向け、各種施設の違いや特徴、求められる人物像などについて学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アクティブラーニングの導入について」(連携企業等: 図書文化社)

期間: 令和元年3月25日(月) 対象: 教職員

内容: アクティブラーニングの導入にあたり、具体的な手法とクラス運営について研修を受ける。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。

(学校関係者評価)

第11条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会(以下「関係者委員会」という。)に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員的能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・就職後の継続率についてのご指摘を基に、卒業生の追跡調査や同窓会組織の発足を進めている。
- ・卒業生委員の方から、卒業後の関係性の強化についてのご意見をいただき、校友会(同窓会)を発足し、コミュニティの拡大をはかっている。
- ・退学防止策として、経済面の支援体制についてご意見をいただき、公的な奨学金の他、学内での奨学金制度の発信をはかっている。
- ・留学生受け入れに関してご意見をいただき、グローバル化にむけて、より日本人学生と留学生が入学から卒業後もつながりをもてる機会の創出に取り組んでいく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
三橋 滋子	一般社団法人日本添乗サービス協会	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界団体等委員
西出 由佳	株式会社Kスカイ	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
下西 由子	セントレジスホテル大阪	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
小椋 圭一郎	社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界団体等委員
中上 隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域関係者
塩谷 典子	株式会社TEI	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
貴治 康夫	立命館高等学校	2018年4月1日～令和2年3月31日(2年)	高校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

公表時期:令和元年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。
 連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、その他の諸活動に関する計画 例:学校安全・保健対策等
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等)、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定、資格取得、検定試験合格等の実績卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	教職員数(職名別)教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等の取り組み状況、就職支援等への取り組み支援企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納入時期)活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況、外国の学校等との交流状況
(11)その他	学則、学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 (ホームページ)

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	日 ： 平 成 3 0 年 9	兼 任	
○			(H)こども学概論 I A	こどもの成長について理論と実践で学びます		30	2	○			○			○	
○			造形 I A	造形活動を行う上で必要な用具、描き作るために必要な絵画や図工の知識や技能を習得します。		30	2	○			○			○	
○			レポート指導 I A	大学科目のレポート作成に必要な知識を身につけます。		30	2	○			○		○		
○			(H)保育原理 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)発達心理学 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)教職論 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)憲法 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)健康科学 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○			○	
○			(H)こども理解の理論と方法 I A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
合計				科目		単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			造形 I B	造形活動を行う上で必要な用具、描き作るために必要な 絵画や図工の知識や技能を習得します。		30	2	○			○			○		
○			(H)保育内容総論 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○				○	
○			(H)生活 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
○			言語表現 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
○			こどもと成長 I B	こどもの成長について理論と実践で学びます		30	2	○			○					○
○			(H)学校・学級経 営論 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
○			(H)教育原理 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
○			(H)特別支援論 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
○			(H)乳児保育 I B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○					○
合計				科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			(S)乳児保育ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○			○		
○			(S)体育ⅠB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1			○	○				○	
	○		(H)音楽Ⅰ理論1ⅠA	教育の歴史は音から「音楽」は人間教育に欠かすべしものとして重視されています。人の成長や発達、日常生活に影響を与え人の心を動かす大切な要素です。幼児保育や教育において必要とされる音楽の指導技術や基礎を学びます。必ず習得しなければいけない音楽知識、また幼児の音楽を指導し使用する上でどうしても知っておくべき指導法や音楽の基礎を習得します。こどもたちが音楽表現の楽しさに気づき、生活へ与える潤いと鑑賞能力を伸ばすことについて学びます。		30	2			○	○				○	
	○		(H)音楽Ⅰ理論2ⅠA	幼児保育や教育において必要とされる音楽の指導技術や基礎を学びます。必ず習得しなければいけない音楽知識		30	2			○	○				○	
	○		児童英会話教授法1ⅠA	幼児・児童へのレッスンの進め方を学びます。児童英語教師として、その指導法とこども英語保育・教育の基礎知識を理論から学びます。クラスルームイングリッシュを身につけ、模擬レッスンやグループ発表を行うことによって、スムーズなレッスン展開が出来るように練習を重ねていきます。		30	2	○			○					○
	○		児童英会話教授法2ⅠA	幼児・児童へのレッスンプランの基礎を学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、児童英会話教師として授業が持てるよう訓練します。こども英語保育・教育を学ぶ上で必要な児童英語についての基礎知識を、子どもの特性面などを含む理論から学びます。英語でのレッスンに必要なクラスルームイングリッシュを身につけ、スムーズなレッスン展開が出来るように実技練習を重ねていきます。		30	2	○			○					○
	○		音楽1ⅠB	こどもたちが音楽表現の楽しさに気づき、生活へ与える潤いと鑑賞能力を伸ばすことについて学びます。		30	2			○	○					○
	○		音楽2ⅠB	こどもたちが音楽表現の楽しさに気づき、生活へ与える潤いと鑑賞能力を伸ばすことについて学びます。		30	2			○	○					○
	○		児童英会話教授法1ⅠB	幼児・児童へのレッスンの進め方を学びます。児童英語教師として、その指導法とこども英語保育・教育の基礎知識を理論から学びます。クラスルームイングリッシュを身につけ、模擬レッスンやグループ発表を行うことによって、スムーズなレッスン展開が出来るように練習を重ねていきます。		30	2	○			○					○
合計				科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1 学年の学期区分
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		児童英会話教授法2 I B	幼児・児童のレッスンプランの基礎を学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、児童英会話教師として授業が持てるよう訓練します。こども英語保育・教育を学ぶ上で必要な児童英語についての基礎知識を、子どもの特性面などを含む理論から学びます。英語でのレッスンに必要なクラスルームイングリッシュを身につけ、スムーズなレッスン展開が出来るように実技練習を重ねていきます。		30	2	○			○			○	
	○		Grammar Composition0(2019) I A	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。		60	4	○			○			○	○
	○		Grammar Composition1(2019) I A	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。		60	4	○			○			○	○
	○		Grammar Composition2(2019) I A	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。		60	4	○			○			○	○
	○		Grammar Composition3(2019) I A	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。		60	4	○			○			○	○
	○		Cross-Cultural Understanding(2019) I A	多様な文献や映像などを通して異文化理解を目指します。		30	2	○			○			○	○
	○		Sociology(2019) I A	社会制度や社会の変化について学習します。		30	2	○			○			○	○
	○		Grammar Composition0(2019) I B	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。	1/ 後	60	4	○			○				○
	○		Grammar Composition1(2019) I B	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。	1/ 後	60	4	○			○				○
合計				科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		Grammar Composition2(2019) I B	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。	1/後	60	4	○			○			○	
	○		Grammar Composition3(2019) I B	語学の基礎となる文法を洋書で学習し、Think in Englishを目指します。	1/後	60	4	○			○			○	
	○		Cross-Cultural Understanding(2019) I B	多様な文献や映像などを通して異文化理解を目指します。	1/後	30	2	○			○		○		
	○		Sociology(2019) I B	社会制度や社会の変化について学習します。	1/後	30	2	○			○		○		
	○		Listening & SpeakingNC(2019) I A	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。	1/前	60	4	○			○		△	○	
	○		Listening & SpeakingEM(2019) I A	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。	1/前	60	4	○			○			○	
	○		Listening & SpeakingID(2019) I A	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。	1/前	60	4	○			○			○	
	○		Listening & Speaking3(2019) I A	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。	1/前	60	4	○			○		○		
	○		News in English(2019) I A	社会問題のテーマを元にディスカッションを行います。	1/前	60	4	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		Listening & SpeakingNC(2019) I B	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。		60	4	○			○		○	○	
	○		Listening & SpeakingEM(2019) I B	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。		60	4	○			○		○	○	
	○		Listening & SpeakingID(2019) I B	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。		60	4	○			○		○	○	
	○		Listening & Speaking3(2019) I B	英語を母国語としない学習者にとって最も効果的だと言われているチームティーチング（バイリンガル講師とネイティブ講師）で、コミュニケーション能力を磨きます。		60	4	○			○		○	○	
	○		News in English(2019) I B	社会問題のテーマを元にディスカッションを行います。		60	4	○			○		○	○	
○			Overseas Preparation II A	留学に必要な心構え、現地での学習、生活上の留意点などを、留学先と留学期間に応じて学習します。		30	2	○			○			○	
○			実習準備 II B	2年生後期に行う実習全般の準備を行う授業です。		30	2	○			○			○	
○			レポート指導 II B	大学のレポート作成に必要な知識を学ぶ授業です。		30	2	○			○			○	
○			(H)保育課程論 II A	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
合計				科目		単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	期
		1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			造形ⅡA	造形活動を行う上で必要な用具、描き作るために必要な絵画や図工の知識や技能を習得します。		30	2			○				○	
○			保育実習Ⅰ指導ⅡA	保育実習準備講座		30	2	○			○			○	○
○			(H)こどもの保健Ⅰ_ⅡA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)教育課程論ⅡA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)教育相談ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)家庭支援論ⅡA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○			○	
○			(H)図画工作ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○			○	
○			(S)教育心理学ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○			○	
○			保育実習Ⅱ/Ⅲ指導ⅡB	保育実習準備講座		30	2	○			○			○	○
合計				科目		単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			教育実習指導 (幼稚園)ⅡB	教育実習(幼稚園)準備講座		30	2	○			○		○		
○			Overseas PreparationⅡB	留学に必要な心構え、現地での学習、生活上の留意点などを、留学先と留学期間に応じて学習します。		30	2	○			○		○		
○			(H)こどもの食と 栄養ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○		○		
○			(H)こどもの保健 Ⅱ_ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○		○		
○			(H)保育内容(言葉) ⅡA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○		○		
○			(H)臨床心理学Ⅱ B	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		30	2	○			○		○		
○			(S)こどもの保健 Ⅲ_ⅡB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○		○		
○			(S)こどもと造形 表現Ⅱ_ⅡA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。		15	1	○			○		○		
	○		音楽1ⅡA	人間の情緒や感受性など心の精神面を育てるには、聴覚・視覚・指先の運動などを使う音楽が重要な要素の1つです。幼児保育や教育の中で音楽を表現するために必要とされる歌唱表現・器楽表現・身体表現を学びます。また鑑賞の能力を高めていきます。実際の幼児教育の現場で役立つ音楽の基礎的な表現能力を習得します。		30	2				○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		音楽2ⅡA	人間の情緒や感受性など心の精神面を育てるには、聴覚・視覚・指先の運動などを使う音楽が重要な要素の1つです。幼児保育や教育の中で音楽を表現するために必要とされる歌唱表現・器楽表現・身体表現を学びます。また鑑賞の能力を高めていきます。実際の幼児教育の現場で役立つ音楽の基礎的な表現能力を習得します。		30	2			○				○		
	○		児童英語教授法1ⅡA	幼児・児童のレッスンプランを学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、卒業後すぐに児童を対象とした英会話教師として授業が持てるよう訓練します。		30	2	○				○			○	
	○		児童英語教授法2ⅡA	幼児・児童のレッスンプランを学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、卒業後すぐに児童を対象とした英会話教師として授業が持てるよう訓練します。		30	2	○				○			○	
	○		クラスルームイングリッシュ1ⅡA	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、なおかつ検定試験合格を目指します。		30	2	○				○			○	
	○		クラスルームイングリッシュ2ⅡA	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、なおかつ検定試験合格を目指します。		30	2	○				○			○	
	○		音楽1ⅡB	人間の情緒や感受性など心の精神面を育てるには、聴覚・視覚・指先の運動などを使う音楽が重要な要素の1つです。幼児保育や教育の中で音楽を表現するために必要とされる歌唱表現・器楽表現・身体表現を学びます。また鑑賞の能力を高めていきます。実際の幼児教育の現場で役立つ音楽の基礎的な表現能力を習得します。		30	2			○					○	
	○		音楽2ⅡB	人間の情緒や感受性など心の精神面を育てるには、聴覚・視覚・指先の運動などを使う音楽が重要な要素の1つです。幼児保育や教育の中で音楽を表現するために必要とされる歌唱表現・器楽表現・身体表現を学びます。また鑑賞の能力を高めていきます。実際の幼児教育の現場で役立つ音楽の基礎的な表現能力を習得します。		30	2			○					○	
	○		児童英語教授法1ⅡB	幼児・児童のレッスンプランを学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、卒業後すぐに児童を対象とした英会話教師として授業が持てるよう訓練します。		30	2	○				○			○	
	○		児童英語教授法2ⅡB	幼児・児童のレッスンプランを学びます。デモンストレーションを徹底的に行い、卒業後すぐに児童を対象とした英会話教師として授業が持てるよう訓練します。		30	2	○				○			○	
合計				科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		クラスルームイングリッシュ1ⅡB	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、なおかつ検定試験合格を目指します。		30	2	○			○		○		
	○		クラスルームイングリッシュ2ⅡB	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、なおかつ検定試験合格を目指します。		30	2	○			○		○		
	○		Communication Practice1(2019)ⅡA	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。		60	4	○			○		○	○	
	○		Communication Practice2(2019)ⅡA	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。		60	4	○			○		○	○	
	○		Communication Practice3(2019)ⅡA	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。		60	4	○			○		○	○	
	○		Communication Practice4(2019)ⅡA	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。		60	4	○			○		○	○	
	○		Film Criticism(2019)ⅡA	映画評論、映画の背景、俳優や監督の意図などを学びます。		60	4	○			○		○	○	
	○		TOEIC1(2019)ⅡA	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		TOEIC2(2019)ⅡA	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		△	○	
合計				科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		TOEIC3(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		○		
	○		TOEIC4(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	90	6	○			○		○		
	○		TOEIC5(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		○		
	○		英検4(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		○		
	○		英検5(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		○		
	○		Journalism(2019) II A	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	2/ 前	60	4	○			○	○			
	○		Communication Practice1(2019) II B	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/ 後	60	4	○			○		○		
	○		Communication Practice2(2019) II B	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/ 後	60	4	○			○		○		
	○		Communication Practice3(2019) II B	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/ 後	60	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		Communication Practice4(2019)ⅡB	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/後	60	4	○			○			○	
	○		Film Criticism(2019)ⅡB	映画評論、映画の背景、俳優や監督の意図などを学びます。	2/後	60	4	○			○			○	
○			(H)生徒指導・進路指導ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/前	30	2	○			○			○	
○			(H)生活科指導法ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/前	30	2	○			○			○	
○			教育実習指導(幼稚園)ⅢA	教育実習(幼稚園)準備授業	3/前	30	2	○			○			○	
○			児童英語教授法ⅢA	幼児・児童へのレッスンの進め方を学びます。模擬レッスンやグループ発表を行うことによって、児童英語教師として、その指導法とこども英語保育・教育の基礎知識を理論から学びます。クラスルームイングリッシュを身につけ、スムーズなレッスン展開が出来るように練習を重ねていきます。	3/前	30	2	○			○			○	
○			Child care EnglishⅢA	オペア留学で必要とされる保育英語を学びます。	3/前	30	2	○			○			○	
○			Overseas PreparationⅢA	留学に必要な心構え、現地での学習、生活上の留意点などを、留学先と留学期間に応じて学習します。	3/前	30	2	○			○			○	
○			こども保育就職対策ⅢA	こども教育業界対応就職対策です。保育園、幼稚園、児童福祉施設、インターナショナルスクール、児童英会話教師に合わせたエントリーシート指導や面接対策、グループディスカッション対策、プレゼンテーション対策、公務員試験対策などを行います。	3/前	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			留学準備ⅢA	後期の留学に向け現地の基本情報を知り、留学中のトラブルや、アクシデントに備えます。	3/ 前	30	2	○			○				
○			(H)家庭科指導法ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/ 前	30	2	○			○				
○			(H)教育方法論ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/ 前	30	2	○			○				
○			(H)国語Ⅰ_ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/ 前	30	2	○			○				
○			(H)算数ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/ 前	30	2	○			○				
○			(H)道徳教育論ⅢA	姫路大学通信教育部の科目概要を参照して下さい。	3/ 前	30	2	○			○				
	○		オペア留学ⅢB	オペア留学		##	30	○			○				
	○		短期留学単位ⅢB	短期留学		##	26	○			○				
	○		General EnglishⅢB	短期留学前後に行う英語授業と、4年次に参加するインターナショナルスクールでのインターンシップの準備授業です。	3/ 後	60	4	○			○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		TOEIC1(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		TOEIC2(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○		△	○	
	○		TOEIC3(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		TOEIC4(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	90	6	○			○			○	
	○		TOEIC5(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		英検4(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		英検5(2019) II A	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/ 前	60	4	○			○			○	
	○		Journalism(2019) II A	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	2/ 前	60	4	○			○		○		
○			クラスルームイングリッシュ(N)IVB	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、なおかつ検定試験合格を目指します。	4/ 後	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	期
		1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ホスピタリティ IVB	保育者にとって必要とされるホスピタリティを学びます。	4/ 後	30	2	○			○			○	
○			プレゼンテー ション(KE)IV B	自分の主張を的確に、相手に好意的に伝えられるような「話法」を学びます。説得力がある表現で、効果的に自分の考えを伝える力を身につけます。	4/ 後	30	2	○			○			○	
○			パソコン演習 Office総合IVB	パソコンスキルのWord、EXcelの基本操作を習得しさらに応用スキルを身につけ実務に活かせるようにする。	4/ 後	30	2	○			○			○	
○			就職対策IVB	面接やグループディスカッション対策を中心に内定獲得へ向けた実践形式的授業を展開します。	4/ 後	30	2	○			○			○	
○			ビジネスマナー IVB	内定者を対象とした授業。実際に仕事を始めても困らないよう最低限必要なビジネスマナーを学びます。	4/ 後	30	2	○			○			○	
○			(H)教職実践演習 (幼・小・中・ 高) IVB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照してください。	4/ 後	15	1	○			○			○	
○			(H)地域ボラン ティアIVB	姫路大学通信教育部の科目概要を参照してください。	4/ 後	75	5	○			○			○	○
	○		オペア留学IVA	1年間のオペア留学参加者に付与される単位です。	4/ 前	450	30	○			○			○	
	○		インターンシ ップIVA	3ヶ月の留学で学んだ英語力を用い、インターナショナルスクールでのインターンシップを行います。	4/ 前	180	12	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ホスピタリティー(s)ⅣA	保育者にとって必要とされるホスピタリティーを学びます。	4/前	15	1	○			○			○	
	○		インターンシップ準備2(s)_ⅣA	インターナショナルスクールでのインターンシップに備え、英語での保育や、インターナショナルスクールで実際に使われている英語保育の基礎を学びます。	4/前	30	2	○			○		○		
	○		クラスルームイングリッシュ(N_s)ⅣA	幼児保育、幼児教育現場で実際に使用される英語コミュニケーション術を習得し、さらに検定試験合格も目指します。	4/前	15	1	○			○				○
	○		パソコン演習Office総合(s)ⅣA	パソコンスキルのWord、EXcelの基本操作を習得し実務に必要なPCスキルを身につける。	4/前	15	1	○			○				○
	○		プレゼンテーション(KE_s)ⅣA	自分の主張を的確に、相手に好意的に伝えられるような「話法」を学びます。説得力がある表現で、効果的に自分の考えを伝える力を身につけます。	4/前	15	1	○			○				○
	○		General EnglishⅣA	留学前、留学後の英語講座です。総合的な英語力の向上を目指した授業を展開していきます。	4/前	180	12	○			○		○		
	○		Communication Practice1(2019)ⅡB	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		Communication Practice2(2019)ⅡB	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		Communication Practice3(2019)ⅡB	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		Communication Practice4(2019) IIB	ネイティブ講師によるコミュニケーションの応用クラスです。	2/後	60	4	○			○			○	
	○		Film Criticism(2019) IIB	映画評論、映画の背景、俳優や監督の意図などを学びます。	2/後	60	4	○			○		○		
	○		Around the World 1(2019) IIB	国別に基本情報や歴史的名所などを英語で学習する異文化理解のクラスです。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Around the World 2(2019) IIB	国別に基本情報や歴史的名所などを英語で学習する異文化理解のクラスです。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Around the World 3(2019) IIB	国別に基本情報や歴史的名所などを英語で学習する異文化理解のクラスです。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Around the World 4(2019) IIB	国別に基本情報や歴史的名所などを英語で学習する異文化理解のクラスです。	2/後	30	2	○			○		○	△	
	○		Economics(2019) IIB	国別に基本情報や歴史的名所などを学習する異文化理解のクラスです。貿易、雇用、不平等など、経済問題を学習します。	2/後	30	2	○			○		○		
	○		Reading & Writing1(2019) IIB	英文の構造を学び、効率良く情報を得るテクニックや、英文Writingのコツを学習します。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Reading & Writing2(2019) IIB	英文の構造を学び、効率良く情報を得るテクニックや、英文Writingのコツを学習します。	2/後	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		Reading & Writing3(2019) IIB	英文の構造を学び、効率良く情報を得るテクニックや、英文Writingのコツを学習します。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Reading & Writing4(2019) IIB	英文の構造を学び、効率良く情報を得るテクニックや、英文Writingのコツを学習します。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		Cultural Anthropology(2019) IIB	多様な文化、伝統、思想など文化人類学の基礎を学びます。	2/後	30	2	○			○			○	
	○		TOEIC1(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		TOEIC2(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		TOEIC3(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		TOEIC4(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		TOEIC5(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
	○		英検4(2019) IIB	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(語学ビジネス専門課程こども教育研究学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			英検5(2019) II B	問題の解き方、時間配分などのテクニックを徹底的に身に付ける戦略クラスです。	2/後	60	4	○			○			○	
○			Journalism(2019) II B	ライティング・テクニック、ビデオ・クリップ作成などジャーナリズムを実践的に学びます。	2/後	60	4	○			○		○		
合計				科目				3600単位時間(3420単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業に必要な総時間数は3420時間	1 学年の学期区分	前・後
各科目の単位は出席率75%以上、評価点60点以上で認定する。	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。